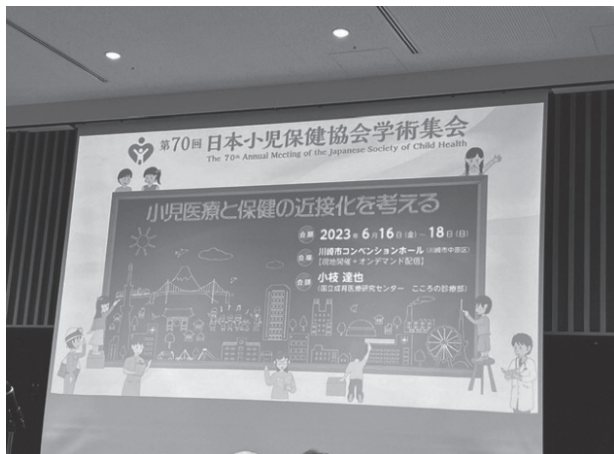


学会参加報告

第70回日本小児保健協会学術集会に参加して

那覇市役所 地域保健課

宮 里 晃 美



2023年6月16日から18日の3日間、神奈川県川崎市で行われた日本小児保健学会学術集会に参加させていただきました。「小児医療と保健の接近化を考える」というテーマで医療、保健、教育など様々な分野の講演や発表を拝聴することができました。

初日の基調講演では、子どもをbiopsychosocialに捉え、支援する小児保健を目指す取り組みが大事であるという内容でした。今回の3日間の講演を通して、私の中で一番残っている言葉がこの“biopsychosocial”です。多くの講演や発表で使われており、置かれている状況や問題を、身体的・心理的・社会的に捉え、理解していくという概念です。健診の現場は、医学的な視点だけでなく、家族の情報、家族を支える社会資源の利用など、あらゆる側面を各コーナーで聞き取りし、その内容を今後の支援に活かし、つなげていく場面を多く見えています。受診票に書かれた多くの情報をbiopsychosocialに捉えていくということを今後も健診の現場やその他の支援の中で意識し、問題解決に繋げていきたいと改めて感じました。

また、オンラインを使った相談等の活用の報告や国立成育医療研究センターでの長期入院児に動物介

在療法の代わりにaiboを用いたケアを行っているという報告がありました。動物療法では、感染や咬傷リスクがあるため、制限がありますが、Aiboはそのリスクを回避し、無菌室や行動の制限などで治療にまつわる不安や孤独感の軽減に役立ったと報告がありました。入院後は外来で、Aiboに会うことができ交流も続いているそうです。

新型コロナウイルス感染症の流行により急速に進んだオンラインによる交流やAIロボットを利用した療法など、保健医療の中でのデジタル化の加速を感じた学会でもありました。

また、乳幼児健診では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い健診を中止にせざるを得ない状況があり、個別健診へ変更し実施された自治体が多くありました。那覇市でも保健所業務をしながら実施できる方法として、乳児健診を個別健診で実施していました。健診では対象者の健康状況のみでなく、保護者の健康状況や育児負担感を確認し保健指導を行う必要があります。今回の学術集会で発表されていたのが、共通の問診表を用い、健診の標準化とレベルの向上を図るために、「健やか子育てガイド」を利用した医療機関での医師による保健指導についての取り組みの報告がありました。個別健診での保健指導の部分を、「健やか親子ガイド」を利用し、指導に活用するという内容です。医師が健診時に養育に関する質問票（栄養、行動と睡眠、遊びメディア、歯のケア、安全、子育ての大項目6個、小項目34個）があり、ガイドには同項目について、それぞれ指導内容が記載されているため、ガイドに沿って医師や看護師などが子育てのアドバイスをすることができるよう内容となっていました。これは個別健診だけでなく、保健指導の標準化というところで、今後

も発展を期待したいと思いました。

学会終了後の懇親会では、先生方や小児保健協会皆の様や他市の保健師さんと情報交換や交流ができたこと、またお昼はランチョンセミナーとしてお弁当をいただきながらの研修は初めての体験であり、充実したとても有意義な3日間でした。

最後に、このような貴重な機会をあたえてくださった沖縄県小児保健協会の皆様、また業務繁忙の中でも快く研修参加へ送り出していただいた職場の皆様に深く感謝申し上げます。

